

## 学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 号		
所属	保健学専攻 生涯保健学分野 成人保健学領域	氏名	黒崎 真樹
学位論文題目	Intertrial rest for maximum grip and key pinch strength in Japanese young adults		
論文審査担当者	主査 横川吉晴 副査 木村貞治 百瀬公人		
(学位論文審査の結果の要旨)			
<p>最初に、黒崎氏より学位論文「日本人若年者を対象とした握力及びピンチ力測定時の試行間休憩時間」の概要の発表が行われた。研究内容は、健康な若年成人を対象に6条件の休憩時間を設定して、それぞれ別日に握力とピンチ力を3回測定した。6条件間で差を認めなかった休憩時間を2条件間の比較により明らかにしたものである。この後、主査・副査との質疑応答を行った。</p> <p>研究背景では、現行の問題点を導くための先行研究の抄読が適切に行われていた。その中で最大値を測定した研究のレビューと測定信頼性のレビューが混在しており、整理するとよりわかりやすいと指摘があった。サンプルサイズの設定では先行研究に基づき適切に設定されていた。統計解析では研究解析に選択した方法を明確に説明することができていた。審査担当者からの質問や異なる解析方法の質問についても的確に答えることができていた。ただし、3回の測定値間で同等性を示す検定は行われておらず、反復測定分散分析を実施していた。この点は先行研究に倣って行われており、今後同様の研究を行っていく上で検討が必要な点と思われた。</p> <p>6条件のうち特定の休憩時間から3試行測定の差を判別できると仮定していたが、本研究目的である試行間休憩時間を明確に提示できなかった。そのため、6条件からすべての2条件の組み合わせを比較することによって適切な休憩時間を導き出していた。3試行測定の差を用いて研究目的を明らかにできなかったこと、二次的な解析方法による結果を用いて結論に結びつけている点は、(論文の字数制限のため)紙面上で説明がやや足りていないと思われた。その上で、考察では結果の解釈にあたって論理的な説明が行われており十分評価できる。</p> <p>スライドプレゼンテーションによる発表内容はわかりやすいものであり、学位論文を補足する結果やデータを提示していた。討論全体を通じて、質疑応答も的確に解答できており、研究者としてふさわしいスキルを習得できていることが推測された。</p> <p>以上のことから、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			